

大洲市学校統合合意書調印式

南久米小が大洲小と統合

6月26日(日)、南久米公民館で南久米小と大洲小の統合合意書調印式が行われ、関係者約50人が参加しました。開会で清水市長は、廃校となる南久米小学校区の決断に謝意を示すとともに、「子どもたちには、相互信頼・相互理解により立派な大人になってほしい。地域の中心である小学校がなくなることによって、地域の歴史や伝統が廃れることのないよう、市も支援していきたい」と述べました。



調印式では、清水市長、教育委員会委員長、それぞれの校区の統廃合検討委員会委員長、PTA会長が統合合意書に署名しました。

署名後、それぞれの校区の統廃合検討委員会の委員長があいさつを行い、南久米小の梶原敬一郎委員長は、「言い表しような寂しさがあるが、今回の調印は全員の理解を得て決定した。今後、子どもたちとの交流が少なくなるのではないかと危惧しているが、逆にこの機会をチャンスと捉え、地域の活性化に繋がってほしい」と、また大洲小の小澤功委員長は、「南久米小学校区には、小学校が廃校になる寂しさや複雑な思いがあると察する。残された課題については、地域の気持ちを汲み取っていただき、充分検討していただきたい。子どもたちにとっても、通学の問題や友だちと早く打ち解けられるのかなど課題があるが、統合に向けて我々も協力していきたい」と話されました。

今回の調印式により、南久米小は、平成25年4月に大洲小と統合することになります。

JICA表敬訪問

「山口哲史さん」青年海外協力隊員として出発！

今回、大洲市野佐来出身の山口哲史さんが中南米の国ニカラグアへ青年海外協力隊員として派遣されることになりました。6月14日(火)に大洲市役所を訪れた山口さんは、清水市長からの激励を受け、自らも出発に向けての抱負や意気込みを語りました。

山口さんは小学校の教員の資格

を持っていて、主に現地の教員へのアドバイスや教材作成の補助、授業中の個別児童支援を行います。また、現地の人々や文化とふれあいながら、日本の音楽・環境や日本文化などの紹介を通じて、ニカラグアと日本の良好な関係を築いていきます。派遣期間の2年間は、「日本に帰らずに頑張る」ことにしているそうです。広報「大洲」を通じて、その活動を紹介していきますので、みなさん楽しみにしてください。



山口さんの他に、これまで大洲市出身者では6人の若者が青年海外協力隊員として活躍しています。そのうち、高野将太さん(八多喜出身)はエルサルバドルで活躍中です。日本と途上国との架け橋となるべく、日本の国際協力のさらなる飛躍を目指し頑張ってください。

高齡者叙勲
おめでとうございます

瑞宝双光章



矢野 ^{みつひろ}三弘 さん(八多喜町)
元大洲市立平野小学校長

長年にわたり、学校教育に貢献されたご功績により受章されました。



吉岡 ^{つとむ}務 さん(中村)
元大洲市立平野中学校長

長年にわたり、学校教育に貢献されたご功績により受章されました。

愛媛マンドリンパイレーツの
公式戦と交流会



7月3日(日)、八幡浜・大洲地区運動公園野球場で愛媛マンドリンパイレーツの公式戦が行われました。前期を2位と好成績を残した愛媛マンドリンパイレーツは、後期初戦を快勝し、2戦目となるこの日は前期優勝の強豪・徳島インディゴソックスとの対戦です。試合は投手戦の様相ながら、序盤、中盤に1点ずつを取った徳島が、優位に試合を進める展開となりました。0-2で迎えた8回裏、四球と連打で1点を返し、さらに古^{ふる}川^{かわ}選手^{せんしゅ}のタイムリーで同点としました。最終回到に守備が乱れ、2-



3で敗れはしたものの、704人の観客が見守ったこの試合は、手に汗握る好ゲームとなりました。

試合終了後、大洲市スポーツ地域振興協議会、愛媛マンドリンパイレーツ大洲地区後援会の主催で選手との交流会が開催されました。交流会で星野おさむ監督は、「今季から監督とコーチ陣が一新し、みな年齢が若くなったため、選手らにより近い立場で指導ができるようになった。後期戦では、一人ひとりが見出した前期での反省点を生かし、優勝できるような丸となって戦っていききたい」と抱負を述べました。

県民球団となって2年目の愛媛マンドリンパイレーツ。後期優勝を目指して頑張ってもらいたいと思います。

6 / 4 (土)
6 / 5 (日)

ほたるの光に誘われて

～第39回柳沢ほたるまつり～

愛媛県天然記念物に指定されている『ゲンジボタル』を多くの人に見ていただき、地域振興につなげていこうと始まった柳沢ほたるまつりが、元柳沢小学校で盛大に開催されました。

グラウンドいっぱい、うどん・地元産野菜・木工品・ピザ焼き体験などのバザーが並び、地元の小・中学生による子ども神楽やお菓子まき・魚釣りなどの催しが行われました。

今年は5月になっても気温の低い日が多く、ほたるが飛んでくれるか心配されましたが、矢落川沿いではたくさんのほたるが見られ、訪れた人を楽しませていました。田処会場では、ほたるボランティアガイドによるお接待もあり、好評を博していました。



華麗な舞を披露する藤縄神楽

ホタル観賞とハーモニカの夕べ

～河辺地区～

6 / 7 (火)

今年で3回目となる「ホタル観賞とハーモニカの夕べ」が河辺ふるさとの宿で開催され、河辺町内外から70人の参加がありました。

当日はあいにくの雨模様で、ホタルの観賞はできませんでしたが、第1回から出演していただいているジャズハーモニカ奏者「ちゃ太郎」さんのハーモニカ演奏、地元から古野誉さん玲奈さん親子・大富修二さんの3人組によるユニット「スプーン」のライブ、河辺ふるさとの宿の田中支配人夫妻による詩吟披露、最後に昨年に引き続き櫻田高幾さんのギター弾き語りと盛りだくさんの催しで、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



見事なセッションです！

6 / 12 (日)

情熱と団結力で開催

～櫛生しょうぶ祭り～

櫛生地区最大のイベント「櫛生しょうぶ祭り」が開催されました。約1,400株1万本のハナショウブが満開となるはずでしたが、2日前の雨と突風によりしょうぶが倒れ、祭りの開催自体が危ぶまれる事態となりました。祭りを開催したい、そんな強い思いから、地区住民が協力し合い、花を摘み、茎を立てて当日を迎えました。

当日もあいにくの悪天候で、大雨の中での開催となりましたが、大勢の見物客に訪れていただいたお陰で、バザーや櫛生小学校豊年踊りも大盛況のうちに終了しました。

祭り終了後も県内各地から愛好家が訪れ、色とりどりのハナショウブを堪能していました。



丹精込めて育てられたハナショウブ

6 / 14(火)

みんなでイキイキ健康づくり ～第32回肱川クロッケー大会～

肱川の高砂運動場で「第32回肱川クロッケー大会」が開催されました。

この肱川クロッケー大会は、クロッケーを通じてお互いの親睦を図り、健康づくりと軽スポーツの普及を図るため行われているもので、今年は肱川町内の12チームが参加し、元気でハツラツとしたプレーをみせていました。

予選は4チームを1ブロックとし、3ブロックに分けてリーグ戦を行い、各ブロック1位のチームが決勝リーグへと進んで優勝を競いました。

梅雨に入り天候が心配されていましたが、当日は晴天に恵まれ、参加者たちは元気よくプレーを楽しんでいました。



暑さにも負けず元気にプレーする選手のみなさん

泥まみれの戦い ～第17回 どろんこミニバレー大会～

6 / 19(日)



どろだらけもへっちゃらです！

「なんぼ雨がふってもやれる大会です！」白滝公民館柴分館の岡花貞分館長の挨拶で、どろんこミニバレー大会が始まりました。県内各地から27チーム(うち小学生の部3チーム)が参加し、大雨の中熱戦が繰り広げられました。競技ではポイントが決まるたびに大歓声があがり、珍プレー・ハッスルプレーには笑いと拍手が起こっていました。

また、会場内では主催者による賄いがあり、参加者たちはしし鍋やぜんざいなどで冷えた体を温めていました。

大会の開始前には小学生による田植体験も行われ、子どもたちは素足で土に触れ、その感触を楽しんでいました。

伝統あるこの大会を継続できるように、来年もみなさんの参加をお待ちしています。

6 / 26(日)

子どもたちが安心して遊べる環境を ～大洲幼稚園の園庭芝生化事業～



芝生を丁寧に並べていく園児たち

大洲幼稚園で園庭の芝生化作業が行われました。これは、園児がのびのびと安全に安心して遊ぶことのできる環境整備と、降園後の園庭を地域住民に憩いの場として提供することを目的に実施したものです。

この日は、雨が降り出しそうな曇り空の下、PTAや園児、各種団体など合わせて約40人が参加しました。

関係者から手順の説明を受けた後、作業を開始しました。建物の基礎を基準にして、次々と芝生が園庭に敷き詰められていきます。参加した園児らは芝生を運んだり、土を平らにしたりと、懸命に作業のお手伝いをしていました。

午前8時からの作業は約2時間で終了し、約440平方メートルの園庭は緑で覆われました。園児らは芝生の上を跳んだりはねたりして、芝生の感触を確かめていました。

今回の芝生化事業は、市内の公立幼稚園では初めての試みで、今秋、喜多幼稚園でも実施する予定です。